

ロシア為替週報

2021年8月16日 | みずほ銀行欧州資金部

〈過去1週間の動き〉 (8月7日～8月13日)

USD/RUB: 73.185～74.145

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、下押し先行後、反発。週を振り返ると、対ドルで、若干水準を切り上げた。もっとも、値動きの大半はドル側の要因によるもので、対ドルでは切り上げた水準も、対ユーロでは概ね横ばい、対円ではむしろ切り下げて週の取引を終えた。週前半のルーブル軟調は、引き続き、6日発表された米7月雇用統計の上振れを受けたドル堅調の裏返しと考えられた。逆に、11日のルーブル急反発、その後の高止まりは、11日に発表された米7月CPIが、「予想の範囲にとどまった」ことが要因と考えられた。それぞれ、米連銀による金融緩和(資産購入策)縮小(テーパリング)開始の、前倒し、先延ばし、と読まれたことが、ドル買い、ドル売りを誘った格好になった。

〈過去1週間に発表された主要経済指標等〉

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/11	11:00	財政収支(RUB/年初来)	7月	+890.3bn	+957.0bn	+625.9bn
	13:00	貿易収支(USD)	6月	+18.3bn	+11.7bn	+10.2bn
8/13	16:00	GDP(前年比)	Q2 A	+10.3%	+10.0%	-0.7%

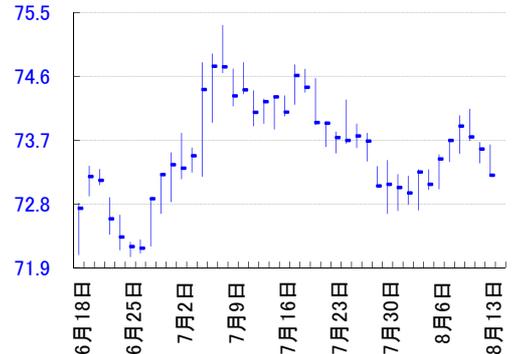
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

〈向こう1週間の見通し〉 (8月14日～8月20日)

USD/RUB: 72.80～73.60

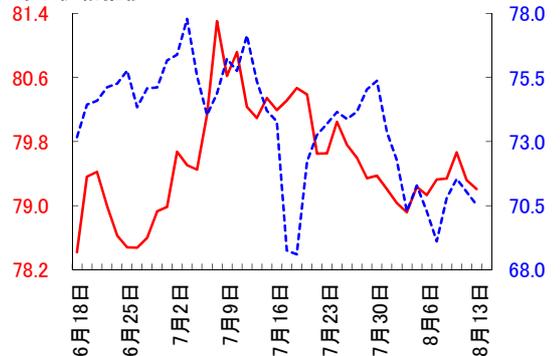
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、方向感の交錯した横ばいを予想。米連銀によるテーパリング開始時期を巡る思惑と、この間のドル(或いは米長期金利)の反応には、非対称性を感じる。米7月雇用統計の上振れが、単月の数字ではあっても、ドル押し上げ要因として相応に「納得のいく」材料と感じられたのに対し、米7月CPI(や13日のミシガン大学8月消費者マインド指数の下振れ)に対するドル売りは、「過剰な反応」だったように思われてならない。上述の通り、米CPIは「予想通り」だったわけだが、過去3ヵ月、予想を大幅に上振れてきたCPI(4月以降、予想/発表はそれぞれ+3.6%/+4.2%、+4.7%/+5.0%、+4.9%/+5.4%だった)が、予想の範囲に落ち着いたことが、どうして、物価頭打ち(が近い)という判断につながるのか、全く理解できない。予想の上振れが重なれば、予想自体が強めの数字を見込むのは当然ではなかろうか。昨年同CPIは、8月以降、前月比で+0.4%、+0.2%、+0.1%と推移しており、年初来の同指数(前月比)がここまで平均+0.59%で推移してきた経緯に鑑みれば、9月以降、(前年比の)物価が再び上振れていく可能性は、高いというのでなければ、十分に考えられる。(ミシガン大学消費者マインド指数は、確かに注目度の高い指標ではあるものの、おそらくはデルタ株の蔓延を理由とした、あくまでも「気持ち」の落ち込みに過ぎないとも言える。)こうした反応や、持続的なドル買いと、急速なドル売り戻しに見える値動きが物語るのは、「ドル買いを積み上げ易い環境」であり、「市場がドルを買いたがっている」傾向ではなかろうか。この傾向は、おそらく、足元注目を集めるカンザスシティ連銀経済シンポジウム(@ジャクソンホール/8月26～28日)が終わるまで続くように思われる。一方で、素直にドル堅調を中心に見込めないのは、この間、ルーブルはほとんど反応を示さなかったものの、ロシア当局側が足元進めている物価抑制努力が、いずれルーブル押し上げにつながる可能性を警戒するから。先月末の閣議で、プーチン大統領は、特に一般庶民の生活に密接に関わりのある食品(いわゆる「ボリスチ食材」)の価格抑制を、政府と中銀が協力して目指すように指示したという。それに対し、政府は、燃料輸出などに対する課税強化(燃料の輸出を抑え、国内に回すことで価格抑制を目指す)や補助金支給、価格上限設定などの対策を打ち出しているが、ロシア中銀の回答は、「物価誘導目標の引き下げ検討(7月31日付英経済紙)」と受け止めることができるだろう。こうした議論は、9月のロシア議会選挙を前にしたプーチン大統領の戦略と位置づければ、時機を得た、整合的な動きと判断することができる。現在までに、ルーブルが材料している様子は全く読み取れないものの、ロシア中銀の物価誘導目標引き下げ議論は、9月中にも具体化すると見られており、短期的にはロシア中銀利上げ要因として、中長期的にはルーブル建ロシア国債(OFZ)水準引き上げ(利回り低下)要因として、ルーブル押し上げに資するはずと考えられる。

USD/RUBの推移(日足/ロンドン7:00～17:00)

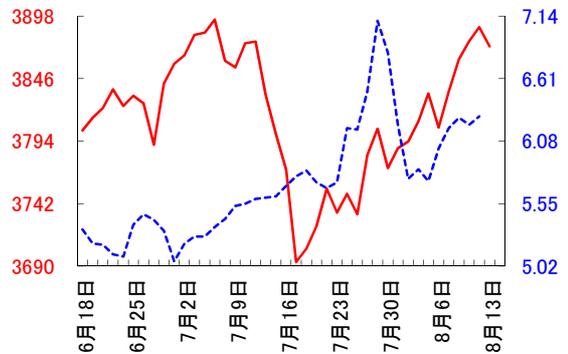


株ルーブル/バスケット推移(ロシア中銀公示)

原油価格推移(ブレント直物)



株式/金利相場の推移(MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		6.50%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+10.3%
失業率	6月	4.8%
消費者物価(前年比)	7月	+6.5%
小売売上高(前年比)	6月	+10.9%
鉱工業生産(前年比)	6月	+10.4%
貿易収支(USD)	6月	+18.3bn

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。